

保護者のニーズについて



「話をわかってもらえないから」について

⇒ 少数意見ですが、この結果を真摯に受け止めていきましょう。

保護者の話を最後まできちんと聴きましょう。

相手の言いたいこと、訴えたい気持ちをきちんと聴くという行為は、決して「ただきいている」といった受け身的なことではなく、積極的、能動的なことです。(平木典子 1993)

保護者は教員が聴いてくれると思うから話せるのであり、話を最後まできちんと聴かないと、「自分の気持ちを受け止めてもらえた」と思えなくなり、信頼関係を築くのは難しくなります。

カウンセリングの基本的な技法を生かしましょう。

- 受容** 相手が話しやすい雰囲気をつくりましょう。「ええ」「そう」「それから」など
- 繰り返返し** 言葉の最後の数語を繰り返すことで、相手が話しやすくなる場合があります。
- 質問** 「開かれた質問」と「閉ざされた質問」をバランスよく使いましょう。
- 反射** 相手を感じている感情をそのまま受け止め、返していきます。
例)「今は混乱して、いらいらしているのですね」
- 明確化** 相手ははっきりと表現できないが、本人が気付いていることを言葉に表します。
例)「 のような感じかな? 」

カウンセリングの技法は他にもあります。相手と話すときに、カウンセリングの技法を少し意識することで、かかわり方が変わってくるかもしれません。



「話すきかけがないから」について

⇒ ニーズの中では一番高い割合です。

- 相談室の環境整備** 気軽に行けて「一人一人が大切にされる場所」をつくりましょう。(相談者が室外から見えない、話し声が外に漏れない、ゆったり座れる椅子があるなど)
- 教育相談週間の設定** 保護者が学校へ足を向けやすくなるのではないのでしょうか。
- チーム支援** 保護者が相談できる窓口を広げてみましょう。
- 家庭との連携** 普段からの声かけ、連絡帳などで児童生徒の様子を知らせることが大切です。また、相談することで早期の問題解決につながることもよさや守秘義務などについて知らせることも考えられます。

最後に・・・

教育相談研修で学んだことを、校内研修などで他の教員に伝え、学びを分かち合い、お互いが伸びていける風土をつくり出せるといいですね。

参考文献 平木典子 『アサーション・トレーニング』 日本・精神技術研究所 (1993)
 諸富祥彦編著 『新しい生徒指導のコツ』 学研 (2001)
 児童心理 8月号臨時増刊 『カウンセリングの基礎』 金子書房 (2002)

児童生徒や保護者のニーズに応える

教育相談の在り方を考えよう

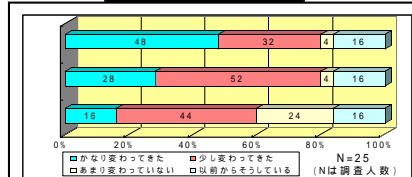


教育相談課 長期研修員 小林 秀之
 指導主事 住谷 孝明

教育相談研修を受けた小中学校の教員25人と担任する児童生徒(803人)および保護者(719人)とのかわりに視点をのいたアンケートを行った結果、次のことが見えてきました。本文中のグラフは必要な項目のみ掲載しました。また資料についても主な意見を掲載しました。図中のNは調査対象人数です。

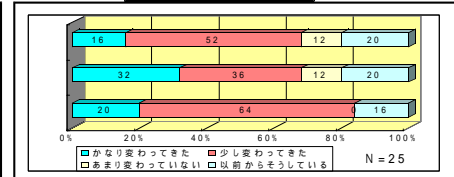
担任と児童生徒のかかわりがどのように変わったか

児童生徒とのかかわり



児童生徒の感情や気持ちを大切にできるようになった。表情を見て最後まで話を聞くようになった。自己決定・自己選択の場面をつくるようになった。

保護者とのかかわり



親と話し合う機会を自分から設けるようになった。表情を見て最後まで話を聞くようになった。親の考えを大切に受け止めるようになった。

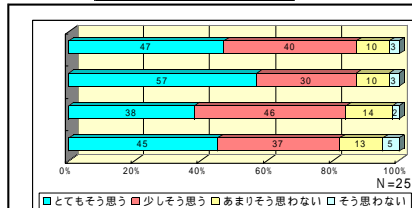
児童生徒の気持ちを大切にしかかわるようになりました。



児童生徒や保護者はどのように受け止めたか

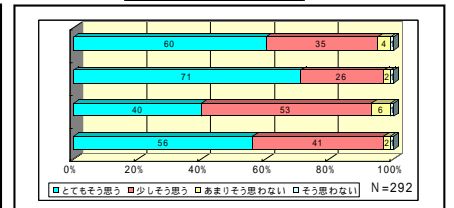
～担任と気になっていることや困っていることを話した児童生徒や保護者が感じたことから～

児童生徒の受け止め方



気持ちを大切にしてくれた。最後まで話を聞いてくれた。決めたり考えたりしたことをわかってくれた。自分ができることをやってみようと思った。

保護者の受け止め方



気持ちを大切にしてもらえた。最後まで話を聞いてもらった。決めたり考えたりしたことをわかってくれた。自分ができることをやってみようと思った。



・親が真剣に相談すれば、先生方も真剣に対応してくれました。あのとき、先生に話してよかったです。(中学校)
 ・話を聞いてもらえる、そして考えてもらえることは、親としてうれしいことであり、本当に感謝できます。(中学校)

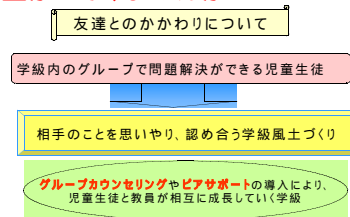
気になっていることや困っていることを相談したことがある児童生徒や保護者は、気持ちを大切にもらい、担任と信頼関係を築いています。

気になっていることや困っていることを担任と話したことがない 児童生徒や保護者の実態から見てきたもの



気になっていることや困っていることを担任と話したことがない児童生徒や保護者の理由の中で、課題と考えられるものを担任へのニーズととらえ、ニーズにこたえる手だてを提案します。

児童生徒同士で問題解決できる力を 生かしてみませんか



自分たちの力で
解決できると
いいね。

小中学生調査人数 544名 複数回答あり		
自分一人で解決するから	24%	一人でも問題解決ができる。
友達と相談して解決するから	36%	学級内のグループに問題解決能力がある。
気になっていることや困っていることがないから	51%	今のところは だいじょうぶ。
手だて		
話をきちんと聞いてもらえないから	6%	自己存在感がもてるようなかわり担任の自己開示
話をわかってもらえないから	8%	アサーション トレーニングの取組
話す勇気がないから	17%	チャンス相談 チーム支援
話し方がわからないから	15%	
話すきっかけがないから	27%	

保護者の意見から学ぼう



- ・先生が相談に乗ってくれる時間が少ないように思う。(小学校)
- ・相談したいことはあるのですが、小学校のときのように、先生と会う機会があまりないので、なかなか話できません。(中学校)
- ・気になっていることなど、面談などの時間に話すことが多い。できれば気になっていることがあるとき、急に相談できる場、時間など設けられればと思います。行事がないときに学校に向かうというのは勇気がいるので、即相談はなかなかできません。(中学校)
- ・気になっていることを話した場合、話し方や受け取り方によって子供に影響はないかと思い、気軽にはすべて話せない。(中学校)
- ・先生に相談してみようかと子供に言うと、しないでほしいというので。(中学校)

保護者調査人数 427名 複数回答あり		
自分一人で解決するから	6%	一人でも問題解決ができる。
知り合いに相談して解決するから	15%	
気になっていることや困っていることがないから	69%	今のところは だいじょうぶ。
手だて		
話をわかってもらえないから	3%	傾聴を心がける カウンセリングの 技法を生かす
話す勇気がないから	3%	家庭との連携 相談室の環境整備 教育相談週間の設定 チーム支援
話すきっかけがないから	27%	
気軽に話せないから	9%	

児童生徒や保護者は、担任と話さきっかけを求めているようですね。

児童生徒や保護者のニーズに応えるための手だてを探ろう

児童生徒のニーズについて



「話をきちんと聞いてもらえないから」「話をわかってもらえないから」について

⇒ 全体の中では少数意見ですが、大切に受け止めていきましょう。

児童生徒が自己存在感をもてるようなかわり ⇒ 「かけがえのない子供」という見方

朝の健康観察のときに「かぜの具合はどう」などの声かけ。
児童生徒が安心して発言できるように心がける。
児童生徒が落ち着いて考える時間を確保する。
個人用のネームプレートを用意し、授業の中で活用していくなど・・・



担任の自己開示

担任が自己開示することで、児童生徒とのふれ合いが深まり、あたたかい人間関係が生まれていきます。⇒ 親しみをもって話しやすくなります。⇒ 学級で過ごすことが楽しくなり、担任の話も受け入れやすくなります。

「話す勇気がないから」「話し方がわからないから」について

⇒ 話し方のコツ(スキル)を身に付けることで、自信がついていきます。

アサーション・トレーニング(適切な自己表現学習)の導入

アサーションとは・・・

お互いを大切にしながら、それでも率直に、素直にコミュニケーションをすること
(平木典子 1993)

トレーニングの簡単なステップ

相手の話をきちんと聴く学習 ⇒ アサーティブな表現を学習



「話すきっかけがないから」について

⇒ ニーズの中では一番高い割合ですね。

声かけ

児童生徒に関心を示すことが大切です。
「開かれた質問」を活用してみましょう。

チャンス相談

児童生徒の気になるサインをキャッチすることもできます。

チーム支援

児童生徒が相談できる窓口が広がります。

集団を対象にしたカウンセリングの技法

構成的グループエンカウンターエクササイズなどを学級づくりに取り入れ、児童生徒同士のふれあいを深めることで、自分のことを表現しやすくなります。

